

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（セ03-06-1/3）

龍門石窟の保存修復に関する調査研究

目 的

中国龍門石窟の保存に協力するため、龍門石窟研究院との緊密なパートナーシップを構築し、龍門石窟の現状を詳細に調査し、保存修復の方法についての研究と具体的な処置、人材の養成など、多角的で実効的な成果をあげようとするのが、本研究の目的である。平成13年度からの5力年中長期計画に引き続き、平成18年度からの3年間で実施している。

成 果

（1）人材養成

平成17年度まで実施していた長期研修者の受け入れが終了し、18年度からは短期研修者のみを受け入れることになった。今年度は1月10日から2月4日までの日程で、龍門石窟研究院保護センター楊剛亮研究員を招聘し、地理情報システムGISの技術を活用した文化遺産の保護研究方法についての研究・研修を行わせた。期間中は、同志社大学文化情報学科に受け入れを依頼し、センター客員研究員津村宏臣氏（同学科専任講師）の指導のもと、2週間同学科に滞在し、GISの理論と操作技術について研修を受けた。その後1週間、東京文化財研究所で龍門石窟におけるGISの活用法に関する研究を行い、成果報告書をまとめて研修を終了した。

（2）研究交流

11月10日から12日の日程で、陝西省唐代陵墓の保存修復に関する調査研究（セ03）の一環として西安文物保護修復センターと共同で開催した「石造文化財の表面処理に関する各種の問題」研究会に、龍門石窟研究院に提案し同研究院研究員の参加を促し、研究交流を行わせた。同研究院保護センターの陳建平、馬朝龍、楊剛亮の3研究員が参加した。

研究組織

岡田健、青木繁夫、朽津信明、谷口陽子、関博充（以上、文化遺産国際協力センター）



龍門石窟

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（セ03-06-1/3）

陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究

目 的

東京文化財研究所は財団法人文化財保護・芸術研究助成財団と陝西省文物局の合意により平成16年度から実施されている陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業を西安文物保護修復センターと共同で運営実施している。この事業に関連して、唐時代の乾陵、橋陵、順陵に附属する石彫像の保存修理に関して、科学的研究と保存修理作業を行うと共に、石彫像保存地区の保存計画策定の研究を行う。

成 果

保護修理事業が対象としている乾陵、橋陵、順陵のうち、乾陵に関しては平成17年度からすでに石彫像の強化処理、撥水处理など、修復工事が進められている。その作業において樹脂などの修復材料が使用されるが、作業にともない発生する石材の変色について、どのような評価を行ったら良いか。その評価基準をどのように考えるか。という問題を考える必要がある。また、創建後約1,300年を経過して、石材表面には蘚苔などの生物が発育している。これらの生物がどのような性質であるかを究明することは、表面クリーニングなどの作業を行う上で必須の研究である。今回はこれらの問題についての研究を行うことを目的として、「石造文化財の表面処理に関する各種の問題」をテーマとし、日中専門家による研究会を開催した。

日中双方の保護修復、地質、考古学などの専門家30人以上が参加し、西浦忠輝氏（国土館大学古代イラク文化研究所教授）が話題提供を行い、それに続いて日中の専門家が研究事例報告を行った。報告の後、参加者による掘り下げた討論と意見交換を行うことができた。

主催：東京文化財研究所・西安文物保護修復センター、場所：西安文物保護修復センター

日程：2006年11月10日～12日（3日間）

第1日（10日） 研究会

第2日（11日） 乾陵視察、漢陽陵地下博物館視察

第3日（12日） 陝西歴史博物館視察

研究会内容：

（1）プロジェクト報告

周偉強（西安文物保護修復センター）「唐陵石彫像保護処理の進捗状況」

李衛（西安文物保護修復センター）「唐陵整備計画の紹介」

（2）生物と石造文化財

（話題提供）西浦忠輝（国土館大学）「入水三十三観音石仏の保存修復」

（事例報告）張大石（東北芸術工科大学）「地衣類の岩石表面への固着と劣化メカニズム 固着性地衣類のレプラゴケを事例として」

（3）石造文化財の保護処理と変色

（話題提供）西浦忠輝「シラン系樹脂の含浸実験」

（事例報告）今津節生（九州国立博物館）「石造文化財における保存処理 変色と耐候試験」

研究組織

岡田健、青木繁夫、朽津信明、谷口陽子、関博充（以上、文化遺産国際協力センター）